

測量日記五（抄出）

【享和二年十月二日（柏崎町（鉢崎宿）／四、五日（高田城下）】

【前略】

同二日朝六ツ半頃柏崎町出立 此日曇午後、
まで度々雨 中濱村 白川領、家二百十軒
柏崎と橋を隔、右側

大窪村 同領、家百十三軒、中濱と道を隔、
即左側、仍而海付ニ阿ら須 下宿村 同領、家二百老軒、
海へ二、三十間 塔輪 家十三軒
鯨波の枝郷

鯨波宿 白川領
家九十七軒、是迄苅羽郡、是方頸城郡ニ成ル

青海川村 頸城郡初高田領、
家数四十一軒 笠嶋村 同領
家八十八軒、上輪村新田 同領
家数十九軒

上輪村ハ、
家八十二軒 鉢崎村 宿と号、同領、
家百九十四軒、此所御関所阿里、高田預り

通行之節長持改の事阿里、測量折不当の事阿里、
此所名主太郎右衛門
組頭五郎左衛門と云

柏崎方 十八丁余、中濱十丁余、下宿八丁余、鯨波二十九丁余、青海川二十五丁余
笠嶋十八丁余、上輪新田五丁余、上輪村廿三丁余、鉢崎柏崎方合三里廿五丁余

柏崎方鉢崎迄ハ、米山裾ニ当、あたり小坂山越海岸通行少難所なり

八ツ半頃着、止宿十兵衛、此夜宵大曇天、九ツ頃小晴て測量

【中略】

（同四日）高田城下呉服町八ツ頃ニ着、止宿三国屋八郎右衛門本陣なり、松
平出雲守泊札阿里、此夜晴天測量

同五日当所方先触・泊触 鉢崎御関所一件の掛合をなし、
猶関川御関所通行尋向杯ニ付 逗留午前ニ先触・泊触曆局 江

書状を添出須、此夜も晴て測量 榊原式部大輔
居城

先触 覚

一 人足五人

一 馬 三疋 内壹疋者人足
二人ニ代ル

一 長持老棹

是持人足

右^者為測量御用上下八人越後国高田町出立、善光寺通江戸表^江罷越候

条、道中御奉行御勘定御奉行御触書之通、前書之人馬無遲滯繼立、

且止宿渡川杯之儀、差支無之様、執斗可給候

一 止宿之儀、雨天逗留其外逗留之儀^茂有之候間、道中^方追々可申遣候

尤測量之場所庭其外明地^{ニ而茂}十坪斗有之候宿用意有之、勿論支度

之儀^者御定之木錢米代相払候間、其所有合之品^{ニ而}一汁一菜之外馳

走ケ間敷儀、決^而被致ましく候、此先触早々継送、板橋宿^方浅草御

藏前片町裏頒曆御用所之内、高橋作左衛門殿御役所迄相届可被申候

以上

戌十月五日

伊能勘解由

越後国高田町^方信濃国

武州板橋宿迄

善光寺

右宿々村々

^{名主}問屋年寄中

【後略】